

PV-Net News

第11号



PV-Net News第11号 2006年6月5日発行 ■発行人：日江井榮二郎 ■編集人：都筑 建 ■発行所：太陽光発電所ネットワーク 〒113-0034文京区湯島1-9-10-202
 ■記事・広告等のお問い合わせ E-Mail: info@greenenergy.jp TEL: 03-5805-3577 ※記事および写真等の無断転載は固くお断わりいたします。
 ■インターネットでも情報をご覧ください。www.greenenergy.jp ■印刷：豊印刷(株) ■レイアウト：八木澤晴子 ■編集協力：(株)NOBOX
 ※太陽光発電のことを英語でPhotovoltaic power generationといい、略して「PV」と呼ばれています。
 太陽光発電所ネットワークの英文名称PV Owner Network, Japanを省略して、この会の名称を「PV-Net」としています。

CONTENTS もくじ

- 1 ニューストピックス
総会が開催されます
新地域交流会が立ち上がりました！
PV-Net Newsのロゴマークを変えました
- 2 特集1 新しいビジョンをもとに
第1部 財源確保の展望
第2部 新組織のあり方を考える
- 4 特集2 PV基礎講座を開催しました
第1回講義1
①太陽光発電の仕組みと機器の動き
②設置に当たっての注意と保証
- 6 第1回講義2
①PV健康診断の説明と実施法
②パソコンでのPV健康診断の楽しみ方
- 7 第2回講義1
住宅用太陽光発電システムの
メンテナンスの必要性和実施
のポイントについて
- 8 第2回講義2
産総研における太陽光発電シ
ステムのオンサイト性能検査
への取り組み
- 9 PV-Net最前線
PV-Greenグリーン電力証書
取引の現状と今後の展望
- 10 九州(広域)地域交流会立ち上げ
フォーラム開催
市民の取り組みを募張から世界へ発信！
「再生可能エネルギー2006国際会議」
- 11 第4回「市民共同発電所全国フォー
ラム2006inかながわ」開催
環境省夜話集会「自然資本
百年の国づくり」に寄せて
- 12 各地の発電量データと
太陽光発電所マップ
- 14 会員の広場
- 16 活動報告 地域の動き
- 22 理事会&部会報告
- 24 事務局からのお知らせ
事務局日誌
- COLUMN コラム
- 21 PV-Net川柳 第九回

NEWS TOPICS

総会が開催されます

本年2月に、太陽光発電所ネットワークが内閣府から特定非常利活動法人(NPO法人)としての認証を受けてから、初めての総会が開催されます。今回の会報には議案書が同封されており、交通手段も案内されていますので、詳細はそれをご覧くださいとして、大切なお願いをひとつ。

議案書とともに、総会への出・欠はがきが同封されています。ご出席のお願いと並行して、欠席の方は、この出・欠はがきが委任状にもなりますので、必ず投函ください。

委任状を含め、総会定足数は正会員2分の1以上です。実は今年の総会がぎりぎり過半数でした。去年は規約の大幅な見直しがあり、総会が成立していなかったら大変なことになっておりました。

今年には大幅な定款改正などはありませんが、NPO法人化に伴い、準会員が正会員に変更されました。そのため、正会員が1502名(2006年5月1日現在)になりました。

総会成立のため、欠席の方は是非とも委任状の提出を、重ねてお願いいたします。

新地域交流会が立ち上がりました！

九州からうれしい便りが届いています。昨年12月の大集合イベントでは8月に立ち上がった宮崎地域交流会の活発な活動が報告されましたが、今度は佐賀地域交流会、そして九州(広域)地域交流会が誕生しました。

本誌P.10「PV-Net最前線」に、去る4月22日に開催された九州(広域)地域交流会立ち上げフォーラムの様子が報告されていますので、ぜひご覧ください。長崎地域、熊本地域と、今後も新しい地域交流会誕生の報告が次々と期待できそうです。

また、準備会としての活動を経て、本年2月に地域交流会として誕生したばかりの中部地域、同じく3月に発足した関西地域交流会も、活発な活動を開始しています。

これら新地域交流会の具体的活動の様子は、本誌P.16~21「地域の動き」で報告されていますので、あわせてご覧ください。

PV-Net Newsのロゴマークを変えました

PV-Netロゴマークの使用規定に則り、本誌右上のマークが正式なものに変わりました。前号と比較してみてください。

新しいビジョンをもとに

PV-Netは大きな節目にきています。内向きでこじんまりとしたものになるのか、会員の最大公約数を汲み取り（少数意見も無視せず）、より発展し充実した組織に育つのかの分かれ目です。多くの矛盾と問題点を抱えつつ、PV-Netの社会的影響力の増大と自立した創造的で活発なネットワークになるかを定めるのが、2006年度の総会です。

年1回の全員参加が求められる重要な会議の議案の要点を示します。

第1部 ★ 財源確保の展望 — 財政部座長 関沢ひろみ

■ 独り立ちに向けて

06年度はPV-Net設立後4年目に入ります。立ち上げには東京電力(株)から大きな寄付があり、有意義に活用でき感謝しています。いよいよ独り立ちが求められる大変厳しい時期となります。この時期を乗り越え自立してゆかなければなりません。

当然のことですが、市民活動として寄付頼りは理想の姿ではありません。基本財源は会費収入、協賛金や事業による収益、小口寄付収入。付加財源としての委託金、助成等の収入を得て、バランスの取れた財源構造に軌道に移行させていきます。そのため支出は極力絞り、会員拡大による堅実な会費収入の増加を求め、NPO法人PV-Netとして参入できる委託事業や助成金を確得し、再生可能なエネルギー社会の実現に貢献する方向に進めてゆきます。

スリム化を図る一方、全国に広がる会員に公平なサービスを提供するため、地域事務局の運営拡充も必要です。事業についても一過性でなく継続していく地道な動きが求められます。現在はPV-Greenが新しいビジネスモデル事業として、早く社会的な認知を受けられるよう活動しています。

財政部は中長期財政案作成の準備として、全会員を対象に「今後の活動に関する会員アンケート」を行いました。短期間にもかかわらず76名の方が回答を寄せています。いただいた励ましや厳しいご意見、ひとつひとつを読み、どれもこの

会のあり方について真剣に考えていることがわかります。これら貴重なご意見をまとめ、中長期財政計画の中に反映させてまいります。

■ 参考資料：

今後の活動に関する会員アンケート

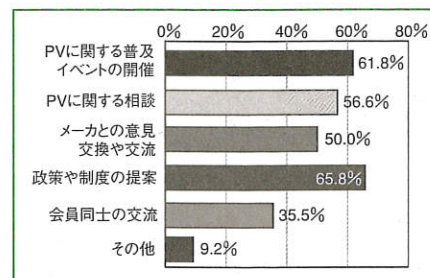
設問1.会全体について

①会の活動に会員として魅力やメリットを感じていますか？

「感じている」92.1%が圧倒的だが、「感じない」3.9%、「無回答」3.9%の人々のこともチェックしておく必要があります。

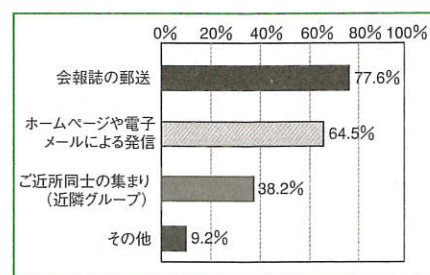
設問2.会の活動について

①会として一番に取り組むべき事業は何だとお考えですか？



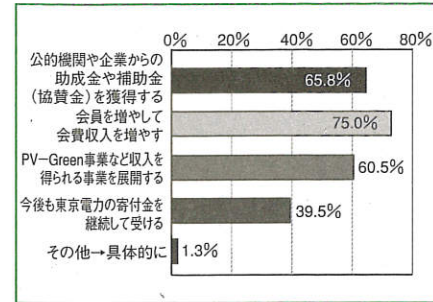
「政策や制度への提言」の取り組みをもっとアピールすべきです。

②会の活動情報を伝える手段として何が良いと思われますか？



設問3.財政のあり方について

①会の活動を支える財政のあり方はどうあるべきと考えますか？



設問4.会の進むべき方向

以下は自由意見をまとめたものです(○は複数意見)。

＝機構に関して

- ・いろいろな意見をまとめる機構としての事務局活動を(○)
- ・年度計画として全体活動と地域活動の日程を考える
- ・地味でも堅実な活動を
- ・予算決議書の公開
- ・NPOとしての厳格な事務処理

＝会員拡大

- ・近隣を知りたい(○)
- ・会員増加に向けてみんなで努力をしよう
- ・会員増のため増えない理由を分析する

＝情報がほしい

- ・地方でのPV講座開講、イベント開催、講座資料の入手(○)
- ・メンテナンスサポート(維持、管理、メーカーへの要望、苦情処理、○)
- ・いままで以上にホームページ、メールを活用する(○)
- ・PR誌(会員向け、企業向け)を分ける
- ・一般向けに会報誌内容をやさしくする
- ・機器トラブルに対してのバックアップ
- ・標準発電所

＝財源確保

- ・会報に広告を載せ収入を得る
- ・全国展開をするなら電力各社からの寄付金集め
- ・保険事業(○)

＝政策、環境貢献など

- ・自然エネルギー(太陽光で)京都

- 議定書のCO₂削減に貢献する
- ・設置できない(集合住宅など)人たちにもPV-Greenなどで参加できる方法をつくる
- ・PVの環境価値を含めた電力原価

- と原子力の原価(電源開発費、処理費)見直しをアピールする
- ・買取価格の引き上げ
- ・環境団体としての活動
- ・日照権補償

＝その他

- ・諸々の事情で活動を手伝うことができず申し訳なく思う(○)

第2部 ★ 新組織のあり方を考える — 事務局長 都筑 建

組織は時代とともに、自分たちの器に合わせて組み立てていくものです。PV-Netは4年目を迎え、当初より物理的な器(会員数、全国規模等)も大きくなり、蓄積してきた実績も充実し、求められる役割も大きくなりました。組織運営を考える上で考慮しなければならぬ基本的な観点を整理します。

■ NPO法人格の取得から

PV-Netとして法人格を求めた理由は、公的機関からの信頼度が増し、助成・委託等がとりやすくなるからでした。しかし手放しで喜んでいられません。PV-Netは本来太陽光発電所長の組織です。しかしこの縛りではNPO法人格は認可されません。PVに関心のある人も正会員になれる。もしPV-Netに魅力があれば、組織を乗っ取られる危険性もあります。

他の環境NPOの事例とPV-Netの実情を点検し、運用規則を再調整する必要があります。

■ 拡大した地域交流会のあり方

会員拡大と組織の全国化は発足当初から表裏一体で求められてきました。これまでの運営は関東を中心とした広域地域内の活動でもありました。中部、関西、九州と、広域(ブロック)の地域交流会の仲間ができ、念願の全国化の拠点ができました。会員もそれに伴って06年度には2500名に膨らむ予定です。関東内だけではなくなかなか会員は拡大しませんが、今度は地域独特の個性を持ちながら会員が増大していきます。

広域の交流会を拠点に各県単位

の交流会がつくられていきます。宮崎・佐賀・長崎・熊本と、すでに発足あるいは本格的な準備に取りかかっている地域もあります。定款では理事は原則として地域から選出しますが、このままでは実情に合わなくなります。ゆくゆくはブロックの協調の上でPV-Net全体の運営をし、理事会も全国化に合わせた体制にしなければなりません。会員数に見合ったブロック代表による全国理事会の運営です。理事は現在19名ですが、旅費等を考慮すると減らす必要があります。ブロック単位の活動が全国理事会に合わせながら自立的運営を基本とする形に変化していきます。ブロックでは事務局機能も求められますが、地域の財源確保も積極的に展開し、大きな負担にならないように準備します。各県単位の地域交流会は、事務局を持つというより連絡所という位置づけが実態に合っているでしょう。

総会も、増大する会員数を考えると全員集合は基本的に無理です。昨年の総会でも委任状を集めて過半数(1/2)を確保するのに大変な苦勞をしました。従って今回の定款変更では定足数1/2から1/4への修正を提案します。大人数のNPOには1/6などの例もあります。さらに、一定の会員数(例：50名に1人)ごとに代議員を各地で選出することも今後検討します。

■ 事務局の役割と位置づけ

事務局はPV-Netの縁の下の役割だけでなく、要として動かさなければなりません。全体の方向を見定め、そのための具体的な対応をし

ます。特にPV-Netのようにボランティアを主体とする会員の組織では、単なる事務作業ではなくNPOとしての趣旨に沿った活動であるかの高度な判断も含めて、膨大な作業から必要な事項を選別して進める能力も問われます。

現在の事務局のメンバーの水準は、どのNGO・NPOの事務局と比較しても遜色を取ることはありません。会員を大事にしつつの配慮や、謙虚さの点からも特筆される水準にあります。一部の会員の中には、事務局員を単なる事務作業員と位置づけ、命令に従えばいいという営利企業のやり方を強要する面があります。NGO・NPOのあり方を誤解したものです。このことで大きな混乱を抱える状況にあるのも事実です。ノウハウと見識を持った事務局をどう生かしていくかは会員次第でもあります。協力した関係をさらに模索しなければなりません。関東を中心とした守備範囲から全国のブロックを集めた運営をすることになります。しばらくはブロックの事務局の体制づくりから運用まで、基本的には現状の専任メンバー数を増やさない対応で進める予定です。

■ 専門部とプロジェクトおよび事業部のあり方

基礎的で全体に共通する管理と、状況に合わせて運営される事業を分けることにより、全体を把握しやすくなります。メンバーもこれまでの地域選出的部分を改め、熱意のある会員とPV-Netの活動に共鳴し、協力する専門的メンバーで構成するようにし、滞りがちだった部分を改善していきます。

特集2 太陽光発電(PV)基礎講座を開催しました

太陽光発電(以下PV)に関する中立で客観的な知識の共有と市民相談員育成を目的に始まったPV基礎講座。2005年度の第1回(2/18富士見区民館にて開催)は、PV-Net相談室メンバーが講師となり初級者向けの講座を、第2回(4/8麹町区民館にて開催)は「太陽光発電のメンテナンス」をテーマに、メーカー・研究者それぞれの立場から必要と感じるメンテナンスのお話をいただきました。全国から集まった参加者は総勢97名、大きな反響にPVへの関心の高さを改めて感じました。

第1回★講義1 ①太陽光発電の仕組みと機器の動き

②設置に当たっての注意と保証

【講師/書き手：PV-Net相談室支援グループ・外谷富二男】

■太陽光発電システムの普及状況

①生産から見た世界の普及状況

2004年度の統計資料によると、日本が47%、ヨーロッパが27%、次いでアメリカの11%の順となっており、この3地域で世界の85%強を占めています。

②日本における普及状況

1994年度から政府の補助事業が始まり、99年度の導入総計が10万kW、2004年度には70万kWに達しました。しかし2010年までの導入目標として政府が掲げている482万kWを達成するには、抜本的な政策の改善が求められています。

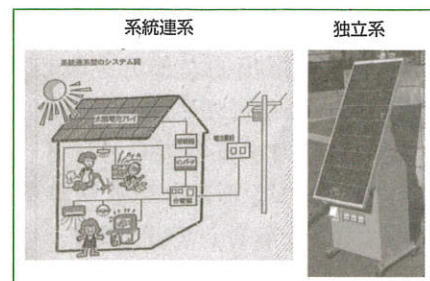
一方、設置価格は、94年度の200万円/kWから03年度には69万円/kWへと下がっています。

■太陽光発電システムの特徴

①系統連系と独立型

PVシステムには「系統連系」と「独立型」があります(図1参照)。系統連系とは、発電システムを電力会社の電線網につないで余剰電力を売電する仕組みのことです。戸建ての一般家庭で普及している

●図1 太陽光発電システムの使い方
「エネルギー楽園」と言われる理由(わけ)



のはこちらのシステムです。

独立系とは、電力会社の電線網につながず、発電した電気をその場のみで消費する、単独の電源システムです。日本では、公園の街灯や交通標識の電源に使用されているのを見かけます。

②エネルギーをつくり出す

車や家電商品のような消費財ではなく、自らエネルギーをつくり出すシステムです。

「太陽光モジュールは、生産するのにエネルギーをたくさん使っているのではないか」という批判がありますが、エネルギー・ペイバック・タイム(EPT:生産時にかかったエネルギーの回収指標)は約2年前後と言われています。

③特長とウィークポイント

- ・太陽エネルギーは偏在なく降り注いでいる。
- ・太陽電池は半永久に使用できる。
- ・可動部分がないために振動・騒音がない。
- ・安全面での心配が小さい。
- ・小さいものから大きなものまでシステム構築が可能。

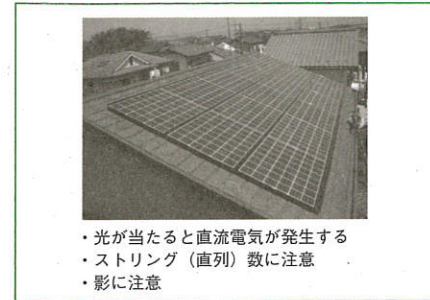
④ウィークポイント

- ・夜に発電しない。
- ・パネルに電気が貯められない。
- ・価格が高い。

■系統連系システムのしくみと機器のはたらき

①太陽電池モジュール(太陽光パネル)
屋根の上に設置します。光が当

●図2 太陽光モジュール



- ・光が当たると直流電気が発生する
- ・ストリング(直列)数に注意
- ・影に注意

たると直流の電気が発生します。

傾斜角度や方位よりも影の影響が大きいため、設置前に影になるものがないかよく調査することが必要です。都会の複雑な形をした屋根の場合は、ストリング(直列数)に注意が必要です(図2参照)。

②接続箱

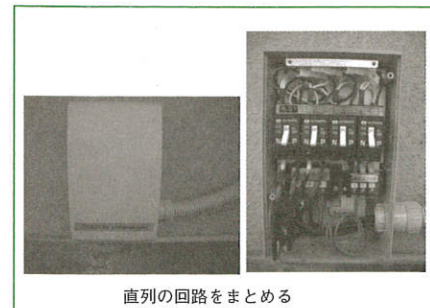
太陽電池モジュールからは、並列数の倍だけ電線が下りてきます。つまり4並列の場合、十の線4本、一の線4本、アースの線1本の合計9本。これらを十の線1本、一の線1本、アースの線1本にまとめる場所が接続箱です(図3参照)。

メーカーによっては、接続箱を兼ねた屋外設置型のパワーコンディショナ(以下パワコン)もあり、この場合には接続箱がありません。

③パワコン

PVで発電した直流の電気を家庭で使えるよう、交流の電気に変換

●図3 接続箱



直列の回路をまとめる

するインバータ機能と保護回路を備えたものです(図4参照)。交流に変換された電気は、家の中にある「分電盤」に接続します。この接続点を「連系点」と言います。

●図4 パワーコンディショナ



直流電気を交流に変換。保護機能つき

④売買電力

通常の家では電力量計は1個ですが、発電システム設置住宅では、売電用と買電用2個のメーターが設置されます(図5参照)。

■売買電のしくみ

①しくみ

PVシステムは、朝、陽が上ってくると自動的に作動し、発電を開始します。そのとき家の中で家電製品を使っている場合は、その電力消費に優先して使い、余っている部分が逆流して売れることになります。通常、発電した電気を全部売ることにはなりません。

②発電・売量・買電量の読み方

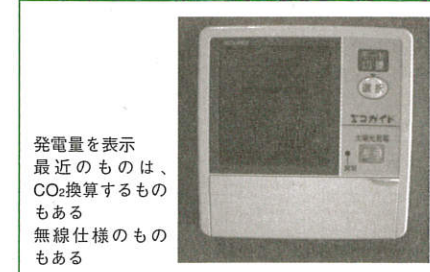
発電量は、パワコンか表示モニターで見ます。積算発電量を毎月1日に記録しましょう。

●図5 売買電力計



逆転防止機能つき。設置者の負担

●図6 発電モニター(オプション)



発電量を表示
最近のものは、
CO2換算するもの
もある
無線仕様のもの
もある

売電量は、売電メータ(通常室外にある)で読みます。積算値を記録しましょう。

買電量は、買電メータ(室外)で読みます。同様に記録しましょう。故障や不調の早期発見につながります。

■発電量について

～設置の前に知っておくこと

①定格出力と実際の発電量の乖離

定格出力(kW)とは、JIS規格で定められた条件下で出る発電量能力です。具体的にはセル表面温度25℃、エアマス1.5のときに1000W/m²の日射を照射したときに出た値を表示することになっています。

実際の住宅で設置した場合、JIS条件とは一致しないため、定格出力の7~8割の発電量が出れば、システムは正常に稼働していると判断して良いことになります。

②温度特性

結晶系シリコンには「温度に弱い」という性質があり、温度が1℃上昇すると、出力は0.4~0.5%下降します。夏場について言えば、屋根の上は80℃にもなるため発電効率は下がりますが、日照時間が長いので発電量は多くなります。

③大気の通過量(エアマス)

発電量を阻害するもうひとつの要因は、「大気の状態」です。大気中に水蒸気や塵があると光が減衰して地上に届くので発電量の低下につながります。雲も同様です。

ちなみに産業総合技術研究所(産総研)の研究では、日本より北にあるモンゴルでは「同じパネルで日本の1.5倍の出力が得られる」ことが実証されています。平均気温が低いこと、大気が乾燥していることが要因と推定されています。

④分光感度

太陽電池が発電する光の領域と人間の目に見える光の領域にはずれがあるため、人間が感じる明るさと発電は必ずしも比例しません。

⑤屋根の傾斜角度・方位と発電量の関係

日本では、真南に向けた傾斜30°(6寸勾配)の屋根がPVシステムにとっては理想ですが、現実の住宅は必ずしもそのように建てられておりません。年間発電量で比較すると傾斜角度が10°違っても2%程度の差ですし、方位が30°違っても5%程度の差です。

⑥3kWシステムの概要

- ・設置面積:約27m²(9m²/kW)
- ・設置重量:約380kg(15kg/m²)
- ・年間発電量:約3000kWh(真南として)
- ・設置価格:約195万円(65万円/kW・・・05年度実績)

■設置する前のアドバイス

これから設置したい、もしくは設置を考えている人が回りにいるという方に向けて、以下のアドバイスをしています。

①事前に明確にしておくこと

- ・予算
- ・希望するシステムの大きさ
- ・屋根の面積と方位
- ・陰の影響
- ・希望するメーカーのある/なし

②設置事業者選定のポイント

- ・2社以上から見積もりをとる。
- ・システムについて熟知しているか、アフターケアはきちんとしているか(事業者が設置した家庭を紹介してもらい、ヒアリングするのが良い)。
- ・契約を急いでいたら要注意。
- ・良いこと尽くめの話になっていないか(発電量の説明は正確か)。
- ・見積書、設置図面、発電シミュレーションなどを揃えてきたか。
- ・保証に関する説明は明確か。
- ・工事後にもらえる以下の書類を確認する。取扱説明書、保証書、仕様書、単線結線図、モジュール結線図(意外と重要)

■設置後の諸問題

4年に1度くらいのペースでメンテナンスを受ける(有償)。

第1回★講義2①PV健康診断の説明と実施法

②パソコンでのPV健康診断の楽しみ方

【講師：PV-Net相談室データ分析グループ・古峰聖治】

【書き手：PV-Net相談室長・國井範彰】

■お宅の太陽光発電は 元気に働いていますか？

太陽光発電(以下PV)システム設置者がいろいろな夢や想いを...

「設置業者に年間約3300kWhくらい発電すると言われてたが、実際は2969kWh(-10%)。これは故障?業者からは『天気の影響があるのでこんなものですよ。それぞれのお宅で違います』と言われてた」

「今月の発電量は異常に少ない。長雨の影響?」

「最近発電量が少ない。故障?」

「設置して5年経っているけど、性能は維持できているの?」

こんな設置者(会員)の疑問に答えようと、PV-NetではPV健康診断を運用しています。

■PV健康診断とは

みなさんの発電所が正常に働いているか(人間で言えば健康か)を知るのがPV健康診断です。そこではこんなことを行っています。

①推定発電量比較：システムの情報、日射量データからシミュレーションによる推定発電量と毎月の実測の発電量との比較です。推定発電量と実際の発電量から乖離度を次式で算出します。

乖離度=(実際の発電量-推定発電量)/推定発電量×100%

これを元にPV-Net独自の判定基準を設けて「◎」「○」「△」「?」の表示とコメントをつけています。

②近隣発電量比較：近くの会員同士の設備容量kW当たり、1日当たりの発電量を相対比較します。推定発電量算出に使われている気象庁の日射量測定点が少ない欠点をカバーするため、近隣の会員のPV健康診断が最も威

力を発揮するのはやはり故障の診断です。会報「トラブル改善の取り組み」の欄で事例が紹介されています。

①会員情報の公開：PVカルテの内容を会員間で情報公開するかは選択できます。非公開を選択しなければ自動的に公開となります。公開項目は(公開)と入っているもののみです。

■PV健康診断の実施法

受診するためには、まずPVカルテの登録が必要です。パソコンからのオンライン登録も可能です。登録には前記7項目が最小限必要で、これがないと診断できません。

次に発電量の登録を行います。発電量はパワーコンディショナ(以下PC)もしくは表示モニターの数値を読み取ります。電力会社から来る検針票は売電量(電力会社へ売った電力量)と買電量(電力会社から購入した電力量)です。間違えないようにお願いします。

PVは動く部分が全くなく、日々変化するのはPCの発電量表示部分のみです。このデータを月々記録するだけで故障の早期発見につながる事例が多くあります。是非

■PV健康診断の楽しみ方

PV健康診断が最も威

力を発揮するのはやはり故障の診断です。会報「トラブル改善の取り組み」の欄で事例が紹介されています。

①会員情報の公開：PVカルテの内容を会員間で情報公開するかは選択できます。非公開を選択しなければ自動的に公開となります。公開項目は(公開)と入っているもののみです。

②システム写真のところにみなさんのPVシステムの写真を載せることができます。

③PVカルテには会員の氏名、住所は表示されません。設置場所は市町村名までです。発電所名も最初は市町村名で表示されますが、好みのニックネームに変更できます。

④パネル、PCのメーカ、型式は極力詳しく登録してください。例えばメーカから出される不具合情報などを該当型式の会員には直に迅速に伝えることができます。

⑤経済情報、トラブル情報等もメモ代わりに登録してください。公開はされません。

■まとめ

いままでパソコンを使う機会の少なかった方も、何かきっかけや目的があると使い始めるのではないかと期待しています。PV健康診断がそのきっかけや目的になって、新たな楽しみになれば幸いです。

健康度とは? 健康度の判定基準 表1 数値の影響をなしとしてシミュレーションした場合 表2 数値の影響を反映させてシミュレーションした場合

第2回★講義1「住宅用太陽光発電システムのメンテナンスの必要性と実施のポイントについて」

【講師：(株)京セラソーラーコーポレーション 品質保証部責任者・松田高明氏】

【書き手：PV-Net相談室 主任相談員・鈴木 昇】

■太陽電池普及の動向

太陽電池の単年度(2004年度)における導入量は既にドイツが1位となり、日本は累積導入量では1位を保持していますが、いずれ抜かれるでしょう。将来の世界のエネルギーにおける再生可能エネルギーと太陽光エネルギーの占める割合は表1のようにになると推定されています。

従って、そして地球の未来のためにもPVは重要な位置を占めています。また近い将来、アメリカも導入を促進させるでしょう。

一方、日本の導入量は04年までの累計で113万kW、2010年の目標は482万kWと大きく、今後かなりのスピードで導入を図る必要があります。その内390万kWが住宅用であることが日本の特徴です。

太陽電池をほとんどの家に設置している団地として群馬県太田市の城西の杜や兵庫県のパナホームシティ西神南などが挙げられます。このように家庭の屋根に設置していることから、システムの稼働状況や耐用年数、そしてメンテナンスが気になるところです。

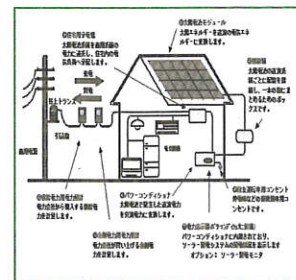
■システムの保守点検について

住宅用PVシステムの概要は図1

●表1 1次エネルギー供給動向

Table with 3 columns: Year, Renewable Energy, Solar/Heat. Data for 2050 and 2100.

●図1 住宅用太陽光発電システム概要



の通りですが、発電システムはパネルのみでなく幾つかの機器により構成されています。保守点検は、20kW未満の一般家庭用の場合、系統連系は「低圧配電線との連系」、電気工作物の種類としては「一般用電気工作物(小出力発電設備)」の範疇にあり、法的には定期点検は求められていませんが、保安の責任者は設置者にあります。将来はメンテナンス不要が目標ですが、できれば定期点検をお勧めします。

点検に関する日本電機工業会のガイドラインは以下の通りです。

- ・竣工時の点検：施工業者が工事完成時に行う
・日常点検：設置者が毎月1回程度行う
・定期点検：専門の業者により4年に1回程度行う

各点検項目に関する京セラの例は表2~4の通りです。日常点検は設置者が行うこととなりますが、目視で行うことと危険回避(屋根に上らない)が重要です。

■点検時のチェックポイント

※現在は業者に対して十分な研修を実施しています。

＝太陽電池

・汚れ：効率低下と掃除の必要性

●表2 竣工時点検

Table with 3 columns: Item, Check Point, Note. Details for construction completion inspection.

●表3 日常点検項目

Table with 3 columns: Item, Check Point, Note. Details for daily inspection items.

●表4 定期点検項目

Table with 3 columns: Item, Check Point, Note. Details for regular inspection items.

(通常は特に心配はいりません)

- ・破損：枠およびガラス
・発電量不足：太陽電池不良、接続ミス、配線ミス

＝架台、取り付け金具
・屋根材の割れ、ずれ

＝パワーコンディショナ(PC)
・端子の緩み

・小動物の侵入(ネズミ、ゴキブリ、アリ)
・設置場所：密閉空間や湿度

＝接続箱
・端子の緩み

＝配線
・系統別配線ミス

・壁裏配線の釘打ち抜き

・設置線からの水の浸入

・PF管の割れによる水の浸入
・配線噛みによる漏電

■点検のポイント

①竣工時点検をしっかりと行ってもらしましょう。正しく施工されていなければ性能は発揮されません。

②日常点検でできることは限られています(目視確認と発電量チェック)。

③定期点検はなるべく受けてください。必ず点検結果を説明してもらい、記録を残しておきましょう。

④あまり神経質にならずおおらかにいきましょう。相手はお天道様。長い付き合いになります。

以上、議義のまとめです。難しいテーマでしたが、理解しやすく楽しく行うことができました。松田様に改めて御礼申し上げます。

※定期点検は専門業者により4年に1回程度実施を推奨。

第2回 ★ 講義2「産総研における太陽光発電システムの
オンサイト性能検査への取り組み」

【講師：産業技術総合研究所 太陽光発電研究センター・加藤和彦氏】
【書き手：PV-Net相談室 主任相談員・本多一民】

■PVシステムの経済性は
「kW」でなく「kWh」

太陽光発電（以下PV）システム1kW当たりの平均価格は新エネルギー財団（NEF）の補助金が始まる前（13年前）の約370万円から、現在は67万円程度にまで下がり、随分安くなってきましたが、発電コストに換算すると43円/kWh。まだ電気料金の倍ぐらいです。

国のコスト目標は、2010年度に電気料金並みの23円/kWh、2030年度には事業用電力並みの7円/kWhにすることですが、例えば2010年度目標は、システム価格が現在の半分の35万円/kWhまで下がり、かつ20年間メンテナンスフリーで動く必要があります。

この目標達成のため、国の技術開発はもっぱらシステム価格すなわち「kW」を安くする方向に向かっています。ただ、果たしてそれだけでよいのかというのが私の感じている疑問です。つまり、PVシステム効率の向上と耐用年数の延伸により「kWh」の経済性を高めることが、同じくらい重要ではないのか、ということです。

そのためにはまず、システムの実性能を継続的に把握する必要がありますが、システム性能は構成や設置環境によって千差万別で実態把握が非常に困難なため、どうすればよいのか簡単に言えないのが、技術開発を難しくしています。

■「Mega-SolarTown」での実験

平成16年4月、産総研つくばセンター内に211台の住宅用PVシステムが導入されました。総システム容量が約1MW（1000kW）なので私たちは「Mega-SolarTown」と呼んでいます。私は上記の疑問を解

決するため、数少ない仲間とともにこのMega-SolarTownで「何が起きているのか？」「故障・不具合は発生していないか？」「将来の劣化や故障につながる兆候はないか？」を調べ、その結果をPVシステムの技術開発にフィードバックしています。できれば実用的な現場でのPVシステム性能検査技術（メンテナンス技術）の確立につなげていきたいと考えています。

具体的には、発電している太陽電池モジュール表面の温度変化や、陰がかかったときのホットスポットの現れ方を細かく観察しています。例えば、開放状態の太陽電池モジュールには電流が流れないので、日射を受けたモジュール面が一様に温まりますが、短絡状態では日射に応じて短絡電流が太陽電池モジュール内を循環し、一部のセルが抵抗となって発熱した状態、つまりホットスポットが見られます。実際に運用されているPVシステムは開放でも短絡でもありませんが、太陽電池モジュールに陰がかかると、やはりホットスポットが現れ、陰の移動につれてホットスポットが生き物のように動いていくのがわかります。

また、太陽電池モジュールに故意に不具合を起こして電流-電圧特性の変化を観測したり、実際のユーザのPVシステム（実はわが家のシステム）で様々なデータ計測を行い、そのシステムが正常かどうか、不具合や故障は起きていないかをリアルタイムで簡単に検査する方法を考えています。

■もっと「ユーザ」の声を！

PVシステムの健全な発展には、そのメンテナンス技術（システム性

能検査技術）は不可欠です。しかし、実際にはわからないことだらけで、多くの研究課題が残っています。地道ではありますが、いろんなシステムを計測・分析して不具合事例や知見を蓄積していくしかない、というのがいまの私の実感です。産総研のシステムだけでなく、国内に導入されている多くのシステムも計測し、データを蓄積していけば、今後もっとよいシステムができ、さらにはメンテナンスを含めた運用の社会システムを確立していくことができると思います。

もし可能であれば、是非みなさんのPVシステムを計測させてもらえないでしょうか（別紙「データ計測ご協力をお願い」参照）。それをきっかけに、市民参加型の産学官十民の共同メンテナンスプロジェクトに発展させていきたいのです。

■そして、将来の夢

いま私が描いている将来の夢に、「PVプラットホーム」と「PVレスキュー」があります。「PVプラットホーム」は、いわば官民共同の国際PVシステム試験・検査センターのようなもので、メーカーに利用してもらったり、ユーザ・施工業者の技術相談・依頼試験を引き受けたり、あるいは途上国の技術者たちがシステム技術のトレーニングができる施設を産総研内につくりたいと思っています。

また、「PVレスキュー」はPVのお助け部隊（PV版サンダーバード？）のようなもので、PVのトラブルを解決する技術者集団とその社会的仕組みです。いまは、これらの夢の実現のために地道な研究をつづけている毎日です。



P V - N e t 最 前 線

「PV-Green」グリーン電力証書取引の現状と今後の展望

■計量法とPV-Green

初の発電電力量認証が近づき、PV-Green証書の売上も少しずつ実績を蓄積しつつある一方で、「計量法」という新たな課題も出てきました。これは「経済・社会活動がスムーズに行われるためには互いに使用する計量の単位が共通かつ十分に正確である必要がある」との考え方に基づく法律です。

証書化の対象である発電電力量中の自家消費分は、「発電電力量一売電電力量（電力会社発行の売電検針票）」から算出し、発電電力量はパワーコンディショナの計測および表示器の発電電力量を元としています。これらは特定計量機器でないため、極端な場合、PV-Greenへの参加宅に検定を受けた計量機器の追加設置の可能性があります。

PV-Netとしては既設PVへの追加設置を極力避け、新設PVに限った機能と価格の面で妥当な計量法認定の機器設置について、経産省やメーカー等と意見交換し、今後の事業のあり方を探っています。

そもそもPV-Greenのスキームは第三者機関であるグリーン電力認証機構（以下、機構）により05年3月に認証を受け、信頼性を担保しています。機構ではRPS法の審議を通して計量法の存在と経済産業省の対応を熟知していた上で、現行のスキームを認証しています。

機構としての対応が5/12のワーキンググループで議論された結果、次回委員会には「現状で既に使用されている計測機器状況を踏まえ、(1)猶予期間を設け(2)現実的な「計量技術基準」、および手間、コストの面から妥当な仕組みを構築し法令遵守対象とすることを目指し、

関係諸機関と知恵を出し合う」といった今後の方針が諮られます。

経済産業省は、計量法に配慮しつつ、PVの普及に資するPV-Greenの意義も認めています。新エネルギー財団（NEF）も、グリーン電力証書事業への進出について検討を始めました。計量法への対応では協調して話を進めています。

■証書システムへの参加速報！

・リサイクルプラントで活用！

家電リサイクル事業を行う関西リサイクルシステムズ（株）と、年間50,000kWh×5ヶ年のグリーン電力証書売買契約を締結！ 同社は独自に開発した冷媒フロン回収量測定システムでフロン回収を行うなど、最先端の技術・設備の導入によるレベルの高いリサイクルを通し、資源循環型社会の実現、地球環境への負荷低減に努める企業です。01年に3kWのPVシステムも導入しています。早速、自社の名刺にPV-Greenマークを取り入れグリーン電力証書システムへの参加をアピールされています。

※URL⇒http://www.krsc.co.jp/

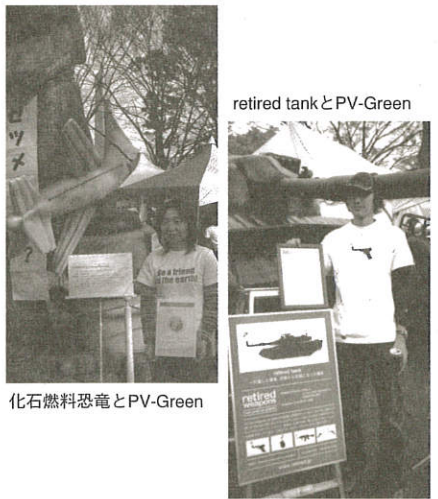
・アースデイ東京2006出展2団体が活用

～展示バルーン（恐竜、tank）送風機が消費する電力をグリーンに～
①国際環境NGO FoE Japan「化石燃料恐竜（※1）」の出展にPV-Greenが協力。頭は自動車、腕は飛行機、背中に石油タンク……化石燃料に依存した現代の私たちの暮らしを象徴する「恐竜くん」は来場者に強烈なインパクトを与えていました。

※URL⇒http://www.foejapan.org/ (※1)化石燃料恐竜：石炭、石油、

天然ガスなどの化石燃料を常食として昼夜を問わず活動し、大量の二酸化炭素や環境汚染物質を排出。19世紀から21世紀半ばにかけて地球上の各地、特に米国、日本などの先進国に多く生息しましたが、食料危機と自ら招いた地球温暖化により絶滅（FoE Japan HPより）。
②平和をテーマにした非営利アートプロジェクトretired weaponsの出展に協力。武器を破壊の道具からピースフルなものに生まれ変わらせることができるという想いの種を世界中に広げよう、というメッセージは、市民によるPVの実践に通じ、深く共鳴します。

※URL⇒http://www.retired.jp/



■かながわモデル

グリーン電力証書システムを活用し、地産地消的に、エネルギーの消費者がエネルギーの生産者を支援できる仕組みであるこのモデルは、地域ごとの特徴を取り入れて運用可能な、PVシステムの導入促進策となります。これまで設置補助が主流であった住宅用PVシステムの普及施策に、PV-Greenは新たな風を吹き込んでいます。

※詳細資料はご請求ください。

九州(広域)地域交流会立ち上げフォーラム開催

去る4月22日、約70名の参加者のもと、太陽光発電所ネットワーク九州(広域)地域交流会(PV-Net九州)設立フォーラムを開催し、交流会を立ち上げました。

フォーラムでは、都筑事務局長による主催者挨拶のあと、協力をお願いした再生可能エネルギー推進市民フォーラム西日本(以下REPW)の田中幸則理事、21日に設立した佐賀地域交流会の西森秀夫代表より来賓の挨拶をいただきました。

PV-Netの活動紹介のあと、参加者による分散会を開催。各テーマのもとに意見発表を行い、非常に打ち解けた雰囲気となりました。

事業計画等の発表では、①今後九州各県ごとの地域交流会を設立すること、②会員拡大目標を800名とすること、などを確認。役員で

は代表世話人に清水洋香氏(宮崎県)、副代表に福田精二氏(熊本県)、松隈一輝(福岡県)を選出しました。終了後は懇親会を開催し、各県でも設立を進めよう、ポスティングを頑張るぞ、など大いに盛り上がりました。

準備会の開催から僅か1カ月半の期間で設立できたのは、REPWさんのご協力が非常に大きかったです。REPWは、九州電力とのコラボレーション事業として99年から3年間、太陽光発電設置費用補助事業を展開。また、測定器を設置させていただいた方からのデータの提供を受け、太陽光発電の特性やピークカット効果の検証など分析評価事業を実施。さらに自然エネルギー学校や自然エネルギーパイオニア会議などを開催。他の地域に比べ、非常に高いレベ



分散会で盛り上がる参加者の様子

ルのベースが育っていたからだと思います。

九州では、このREPWさんをはじめとする多くの方々とともに九州での太陽光発電の普及を通じ、地球温暖化防止に取り組んでいきたいと考えています。全国のみなさん、よろしくお願いたします。

(九州(広域)地域交流会事務局 小池寿文)

市民の取り組みを幕張から世界へ発信！ 「再生可能エネルギー2006国際会議」

今秋、幕張メッセにて開催される「再生可能エネルギー2006国際会議」についてのお知らせです。まずは、実行委員長の黒川東京農工大学教授のスローガンを一部ご紹介いたします。

「わが国の得意な『先進的、先端的技术を通して、地球の持続性(道しるべ)を探索しよう』という会議である。生きとしいけるものすべてが永続的に、持続的に存続していくためには、負の遺産を、力を合わせてプラスに転換させるべく知恵と工夫を出し合い、わが国は行動を起こさなければならない。…産学官が一体になりわが国一般市民にも広く参加を呼びかけてい

く。」
会議と併設して第1回新エネルギー世界展示会に市民の取り組みを世界に発信するブース(場)があります。これに応えようというのがEXPO愛・地球博地球市民村5月に開催した「光と水のエネルギー広場」です。このときの市民メンバーがバージョンアップして世界展示会のブースに参加します。

1年前の出展当初は、国内外から参画した多数の団体が、不慣れた会場にGWも重なり、てんてこ舞いしたことが懐かしく思い出されます。予定していたワークショップなど、お客さまの流れで変更することもしばしば。

しかし、どんな状況の変化にあっても自分たちの伝えたいことをしっかりと発信して、小さな種を蒔き続けました。万博終了後に地球市民村の発信が高く評価されています。

2006年10月11日から13日まで、是非無料の展示場に足を運んでみてください。13日午後はシンポジウムも予定しています。幕張から世界に向けて市民のメッセージと一緒に発信しましょう！

(光と水のエネルギー広場 戸崎康子)

※会場：出展ブースとワークショップは幕張メッセ、13日のシンポジウムは国際開発支援センター(OVTA)内で開催

第4回「市民共同発電所全国フォーラム2006 inかながわ」開催

平成18年3月25・26日の両日、関東圏で初めて「第4回市民共同発電所全国フォーラム」が開催されました。初日の立命館大の和田武先生の基調講演「市民が推進する自然エネルギー普及」を聞いて、日本の自然エネルギーの将来は明るく、推進のための市民のパワーは素晴らしいと痛感しました。

和田先生のことばで印象深かったのは「市民はエネルギーの生産者であり、地域・社会を動かすグリーンプロデューサーです」ということばです。まさにPV-Netはそれを推進する団体でしょう。また、PV-Greenの取り組みも盛り込んでくださっていました。

神奈川にこれからも市民と地域、市民と学校などの「協働」発電所が増えることに期待したいです。

2日目は4つの分科会に分かれ、午後からは全体会で分科会の報告が行われました。

分科会の中でも第3分科会の「行政との協働による環境教育・普及啓発を目的とした市民共同発電所」は、環境基本法における環境教育の推進を受けて一番人気で、2日目参加の65名の中の20名超が参加していました。

第4分科会「自然エネルギー推進を支える制度・仕組み」では都筑さんがコーディネーターを務め、手塚さんがPV-Greenの取り組みを報



和田先生の講演の様子

告しました。(神奈川地域交流会会員/NPO法人ソフトエネルギープロジェクト理事 西川豊子)

※フォーラムで配布した資料(予稿集・資料集や和田先生の発表内容)の問い合わせはソフトエネルギープロジェクトまで。

TEL: 045-681-3829

環境省夜話集会「自然資本 百年の国づくり」に寄せて

去る3月29日、桜が満開の千鳥が淵の近く、TOKYO FMホールで、会場一杯の200名が環境省主催の「環境省夜話集会」に参加。当会の藤井石根副代表理事もゲストコメンテーターとして登壇しました。

環境省では、50年、100年後の将来を見据え、緑、水、空気、生き物といった自然資本を軸とした国土環境・都市づくりを目指す「自然資本 百年の国づくり」(案)を取りまとめ、広く提案募集を行いました(募集締切4月28日)。この百年の国づくり構想案の解説と、コメンテーターを中心に語り合ったイベントがこの集会です。

開会時に、まず小池環境大臣のメッセージが紹介され、次いで百年の国づくり構想が、当会の評議員でもある小林地球環境局長より解説されました。

国民提案募集版として、①森林

整備：若者の自己実現と結びつけて実現、②自然の営みと人の知恵を結びつけた都市づくり、③太陽エネルギーの徹底活用、④緑の街道づくりと大気と水にやさしい交通の推進、⑤緑の郊外と無駄のない中心市街、⑥自然資本で栄える国家の実現、と様々な側面からのアプローチが解説されました(詳細は環境省ホームページ<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=6702>参照)。

さらに、①百年の森づくり、②百年のエネルギー、③百年のまちづくり、④百年の国づくりと、4テーマに分けてコメンテーターが話題を提供しました。

当会の藤井副代表理事はエネルギーの話題として、世界の切迫した温暖化の課題から、大量消費のままでの自然エネルギー利用ではなく現状の半分近い根本的な省エネが人類



ゲストコメンテーターとして貴重な提言を行う藤井石根PV-Net副代表理事

存続のために必要であると訴えられました。「これからの国・世界をつくる」という究極の視野に立った貴重なお話でした。また、PVの推進には国全体を挙げて取り組んでいく必要性も話されました。

最後に、会場の参加者も含めて提案がされ、「国づくりは人づくりでは?」「森づくりの視点から百年は実は短すぎる。千年の国づくりでは」など活発に提案が出されました。優れた提案は、今年6月の環境の日(6月5日)に環境大臣表彰される予定だそうです。みなさんもご注目ください。

テーマ：「確定申告」

～太陽光発電の社会的責務を果たすために～

全国のPV-Netの仲間みなさま、元気ですね！
今回、「確定申告」をテーマに3名の仲間の実践が報告されました。結論から言うと「法の壁」は高かった、と言うところでしょうか。

しかしながら、報告の中に記されているように、こと耐用年数についても同一ではありません。このことから、法令の対象としての太陽光発電は、いまだ発展途上にあると言っても良いのでは。

国会においても「源泉所得税」の廃止が議論の俎上にあがるようになりました。日本の税制の基本は「自計申告」です。まずは、できることから始めましょう。そしてその実践を持ち寄り、経験を交流しながら学習しましょう。そして来るべき未来、自然と共生することのできる発電事業者として社会的責務を果たすことのできる体制づくりに向けて、怠りなく準備を進めようではありませんか。（群馬県みなかみ町 梅澤耕一郎）

PV-Net ML(メーリングリスト)より

PV-Netのみなさま

こんばんは、農地発電所の友です。発電所の確定申告を行いましたので報告いたします。

2004～2005年にかけて、格安太陽電池を利用し、設備を増設しました。その結果、売電収入は大幅に増加しました。発電設備は33kWです。

この農地発電所の2005年の売電電力量は44,407kWhとなりました。同じく売電収入は835,805円で平均価格は18.8円/kWh、購入電力量は15kWhで15,517円となりました。経費は、主なものは原価償却費です。

設備の建設費の累計は965万円で、それを耐用年数17年、定率法で減価償却しています。

2005年分の原価償却費は50万4000円となりました。その他、借地料や農地を維持管理する経費など、考えられるあらゆるものを必要経費として参入した結果、利益は少しかったです。もちろん、PV-Netの活動で個人的に支出した費用は必要経費にしました。

それを雑所得として申告しました。それを本業の事業所得とあわせて確定申告しました。その結果、支払った税金はほんの少しかったです（本業が不振）。まさにNPO法的な確定申告となりました。

自宅の太陽光発電所は、買電料より売電料金が多いのですが、他のガス料金や水道料金と合算して水道光熱費として家計用と分けて処理しました。したがってよほど売電収入が多くならなければ、通常は申告不要と思われると思います。

農地発電所の利益の源は、ただで手に入れた中古太陽電池です。製造後20年以上経過した太陽電池でも、新品と同じ発電性能を保っています。昨年は1枚パネルのガラスが割れてしまいました。それでも発電能力は全く衰えていません。

会員ページの掲示板にて-----

タイトル：太陽光発電を確定申告する

投稿日：2006/03/11(Sat) 21:27

投稿者：大西

設置後1年を経過し、確定申告時期が来たので申告書作成会場で数人の税務署員のアドバイスを受けて確定申告をしました。

■申告(所得税の確定申告書B)の要点

- ①事業(それで食べている事業)とは認められず、収入金額は「雑のその他」に、所得金額は「雑」に分類される。
- ②発電に関する収支内訳書(一般用)を作成し、売上収入(売電)と経費(大部分は減価償却費)、およびその差の所得金額を計算する。
- ③装置の耐用年数は「電気設備のその他」ということで15年とし、定額償却する。償却費を総発電量中の売却分で比例配分した部分をその年の経費に計上する。
- ④3.6kW装置の例(売電は総発電量の約半分)では上記の所得金額は僅かながらマイナスだった。したがって他の所得と合算した所得税もさらに僅かながら減る。修理費が発生したときはその分所得金額はさらにマイナスになり税金も減ることになる。

■申告のメリット

- ①税金上事業とは認められないが、事業者として発電システムの減価償却の様子などを把握(意識)できる(これはアドバイスしてくれた税務署員の言です)。
- ②現実的には起こり得る多額の修理費に備えるメリットが大きい。

来年3月に確定申告をするためには、上記の要点②、③のために年間発電データ、資料などを準備しておく必要があります。申告そのものは若干の慣れが必要ですが、難しいものではありません。

太陽光発電の確定申告を試みる

【神奈川県・見方】

去る1月29日(日)の横浜市開港記念会館での説明会に参加しました。当日用意されていた「わが家ではじめる太陽光発電」の本を読み、見ましたところ、太陽光発電を確定申告するとの記事があり、年金生活の私にもメリットがあるのではと考え、手続きを試みましたが、叶いませんでした。

以下、その経緯をご報告しますので、今後、前向きな情報などがありましたら、よろしくお願ひします。

また、この件は設置者全員の問題であり、PV-Netとしてどのように考え、行動するか、会員の意見も聞いて方向付けをされたいかがでしょうか……。よろしくお願ひいたします。

＝1月29日(日)＝

①横浜市開港記念会館の集いに参加し、「わが家ではじめる太陽光発電」を購入。P.92に群馬県の梅澤さんが太陽光発電を確定申告したとのことで、他の方にも勧められている記事に注目した。

＝2月7日(火)＝

②PV-Net事務局に問い合わせ梅澤さんから電話をいただくことになった。

＝2月8日(水)＝

③梅澤さんから電話で以下のアドバイスをいただいた。

- (ア)年金生活者の個人でも申告できるはずであること(自分は農園の事業に合算している)。
- (イ)まず3月15日までに「所得税の青色申告承認申請書」(別紙)を提出し、承認を得ておくこと。
- (ウ)翌年から3月15日までに確定申告する。今年は両方の提出は不可で(イ)のみを済ませておくこと。
- (エ)確定申告するときは、提出前に知り合いの税理士、またはPV-Net担当の税理士さんに見てもらっておくのが望ましい。
- (オ)確定申告時の経費は、設備の原価償却費などいろいろ具体的に説明あり。

＝2月9日(木)＝

④管轄の保土ヶ谷税務署個人課税部門に行き、相談した内容は以下の通り(2時間30分交渉した)。

・太陽光発電の説明資料：東京電力との契約書、工事請負契約書、補助書類、発電記録、PV-Net資料

・応対者：最初は担当税務官、後半は上司の税務官

(ア)「所得税の青色申告承認申請書」と「個人業(開業・休業・廃業)届出書」(別紙)を提出するも、「収益は赤字になり、利益のないものは事業にあてはまらない」との回答(以下、税務官の回答＝Z、私の意見＝M)。

(イ)Z：太陽光発電所得は事業所得(他に不動産所得と山林所得がある)に該当するが、所得から見るとかなりの赤字になり、利益のないものは事業にあてはまらない(事業の規程に太陽光発電はないが)。

M：現在のように金利が低いと、長期に見るとメリットがあり、必ずしも利益にならない事業ではない。

(ウ)M：個人事業者や多くの会社が太陽光発電を設置して、その経費を合算して申告し認められているのに、個人が設置した場合は認められないのは納得できない。

Z：合算する場合は受理していることが考えられるが、個人の場合はそれのみなので利益になり得ないことが明白。ゆえに承認できない。

(エ)M：近年の動向から、技術の進歩や社会的変化の中で、法令等に不具合が出てくることは多くあり、行政の対応が後手後手で、社会の秩序が乱れ、国民の不信感が増している。国が京都議定書を達成するため、多くの施策が講じられている中で、太陽光発電に期待するものは大きい。太陽光発電設置者への国の補助金がなくなった現在、設置者数の目標達成を考え、この件は認める見解を全国的に検討されることを強く要望する。

◆各地域交流会のホームページアドレスが変わります。

会のホームページの「リンク」で紹介している各地域交流会のリンク先ですが、6月末ごろを目処に随時、新しいアドレスへ移行していきます。更新次第、「リンク」のサイトでご案内しますが、もしご自分のパソコンの「お気に入り」に各地域交流会のサイトを登録していただいたら、更新してください。新アドレスは、[http://\(県名ローマ字\).greenenergy.jp/](http://(県名ローマ字).greenenergy.jp/)です。

例) 東京地域の場合

旧：<http://www15.ocn.ne.jp/pv-tokyo/>

↓
新：<http://tokyo.greenenergy.jp/>

◆会報「PV-Net News」に広告掲載を検討中です。

活動に賛同する方からの協賛金収入を増やしていくため、会報、ホームページへの広告掲載を具体的に検討しています。広告の掲載団体等についてもお勧めがありましたらお気軽に連絡ください。

茨城地域

～さて、次はどうしようか～

相変わらず世話人会は活発で、ほとんど毎月のように集まっております。フォーラムの企画、会員増員などを検討していますが、そろそろマンネリ気味で打開策が必要なようです。かと言って低調というわけではなく、元々不真面目な自由人の集まりなので、談論風発、話はとりとめもなく多方面に及び、収束させるのがなかなか大変な状態です。

そんな中でも、茨城の問題点が見えてきました。

ひとつは、茨城は面積が広く、交通の便の関係でフォーラムに人を集めるのが大変なことです。場所の選定が難しい。地理的に見ればいつも同じ場所になってしまいがちなため、同じ場所では変わりばえがしないので、会員に対し新鮮味を感じさせにくい。フォーラムは中身も場所も新鮮味が重要です。

もうひとつは、自治体の意識の低さであります。前号にも述べてありますが、太陽光発電に関する話が通りにくいのです。多くの自治体では環境関係の部署が担当ですが、土地柄なのか、廃棄物対策が重点で、太陽光発電のような前向きな話はなかなか通りにくい状態です。従って自治体との連携にはまだ年数がかかるため、当分はPV-Net独自に活動せざるを得ないと思います。

こういう状況の中で活動を維持、活性化するために、まず、いつも集まるメンバーを増やそうということで、新たに世話人を5人増やそうとしています。そして多人数でわいわいやることから再スタートしようということです。既に1人決まりました。

活動項目としては、とりあえず昨年の5月以来の第6回フォーラムを10月に開催することにしました。内容的には会員自身の活動発

表に重点を置く考えです。

一方、会員増大を図るためには、当分地道に会員のためになることをやって、PV-Netの評判を上げていこうという原点に帰ることが必要だと思います。PV健康診断でマイナスの乖離度が著しく大きな発電所を調査し、改善に協力しようという相談室の方針に従い、2件ほど調査しましたが、いずれも登録した発電容量が誤っており、正しい容量で診断すると、ほぼ正常に発電しているとの結果が得られました。会員のカルテの内容を確認する必要があるという問題点が明らかになりました。

今後も大勢の世話人が集まって新局面を開いていこうと思っています。

(茨城地域交流会世話人 小西健司)

栃木地域

～栃木地域2006年春の活動～

1月以降はイベント開催、出展はなかったものの、定期的な世話人会を軸に、2月に栃木セキスイファミエス(株)、4月に藤井産業(株)と、県内有力設置業者との関係構築に向けた意見交換会を行い、今後の協働に向けた第一歩を踏み出しました。今後も継続して意見交換会を行い、設置業者側から見たニーズや普及に向けた課題の共有化を図り、具体的な取り組みへとつなげる予定です。

栃木県との関係づくりも順調に進んでいます。今年度の県の住宅向け太陽光発電設置特別融資制度案内パンフレットの作成に協力し、太陽光発電に関するホームページとしてPV-Net栃木地域交流会のURLを掲載いただくことが決まっています。また、5月中旬に県との意見交換会を実施し、今後の協働について具体的な提案、議論を進める予定です。

これと並行して、県のバックアップする環境団体「とちの環県民

会議」省エネルギー部会の新エネルギー利用ワーキンググループリーダーとして活動することが決まりました。現在、具体的な活動内容を検討中ですが、そのひとつとして、今年8月に予定している子ども向け啓発イベント「クリーンエネルギーフェスタ2006」((株)エスペックと合同開催)の枠組みを、広く県内の環境団体と連携できるように拡大することを提案します。これが今後の栃木地域交流会活動の目玉のひとつになるのでは?と期待しています。

マスコミ関連では、2月13日にAMラジオ栃木放送「ゆうがたフレンズ」のNPO紹介コーナー「エールを送ろう!」に出演し、会の活動内容を紹介しました。

栃木地域は、これまでの地道な活動が成果を挙げて、関係各所との信頼関係が構築されている実感があり、今後は具体的な協働の取り組みを提案、実施することで、普及に向けた確実な足がかりをつくっていきたく考えています。

(栃木地域交流会代表 納富信也)

群馬地域

～「草津温泉で温泉熱発電見学ツアー」を企画中!～

夏も近づくと八十八夜～ト ゴールデンウィークも過ぎ、まさに初夏。と言いつつ、この頃の天気は「梅雨か?」と疑いたくなるような毎日です。PV-Netの仲間みなさん、毎日の発電量に悶々とする毎日ではないでしょうか?

さて、少ないながらもアットホームを身上とする群馬では、2006年度の企画を決定いたしました。と言いつつ「一点豪華」を身上としていますので、みなさんのご希望通り「草津温泉で温泉熱発電見学ツアー」を、11月開催を目処に計画しました。メインは温泉、そしてちょっとだけエネルギーについて学習してみようかな、ってとこ

ろです。

とは言え、同時企画にちょっとシュールなものを用意しました。群馬県人なら誰もが必ず知っている「上毛カルタ」の「り」——「理想の電化に電源群馬」——の「光と陰」と言っても良い「八場(やんば)ダム」の建設現場がすぐ近くですので、そこも覗いてみてください、という内容。そんな同時2本立て興業に、是非とも多くの参加者が集ってくれるのを切に願っています。

そんな群馬にどうぞ2006年度は期待してください。

(群馬地域交流会世話人 梅澤耕一郎)

千葉地域

～PV健康診断の個別サポート開始～

2006年度事業の骨格が固まりました。地域フォーラムの開催、環境イベントへの出展はこれまで通りですが、出展参加は増やしたいと思っています。2年連続で開催したバス見学会ですが、2006年度は見合わせました。

その代わりに千葉県内会員のPV健康診断登録率アップを目指し、PVカルテ作成およびインターネット入力個別サポートを通年で行う計画です。概要は以下の通りです。

- ①会員宅へ最寄りの世話人が半日程度訪問
 - ②PVカルテの作成、システムの診断(インターネット使用)までをマンツーマンで支援
 - ③パソコン全般について、わかる範囲内でサポート
 - ④その他相談受け付け
- 詳しくは同封(千葉会員のみ)の案内を参照してください。

最新の名簿によると、千葉のPVカルテ登録率は約52%で、発電量入力(直近3カ月分)は約20%という状態です。特にパソコン環境のない方のカルテ登録率が低い傾向が見られます。まずはPVカルテ作成に重点を置いて支援していく考

えです。

引き続き、地域フォーラムや環境イベントへの出展を通じて会をPRし、まず一般市民の方に知ってもらうことが重要と考えています。このような活動が、結果として会員拡大に結びつけばうれしい限りです。

(千葉地域交流会代表 宮下朝光)

埼玉地域

～PV-Netの活動は地域から始まる～

埼玉の地域活動は、いよいよ佳境に入りました。

会員各位のご要望にお応えするために2006年1月に所沢地区を対象に開催されたエリア交流会は、06年5月13日までに大宮・川越・春日部・熊谷の各地で開催され、2006年度活動方針の実行に向けて基礎がつけられつつあります。

2006年度活動の柱は以下3つを重点施策として、地域に密着した活動を中心に、資金面も含め自立を目指したいと考えています。

- ①エリア活動の推進
- ②証書事業の推進
- ③行政・市民団体とのコラボ活動の推進

また、昨年度好評であり、会員のみならずから熱い期待をいただいています各種見学会を、近隣の地域交流会との共催も視野に入れ、有意義で楽しい企画もベース活動の合間に企画し、会員みなさまと、みなさまにお披露目していく予定です。

また、世話人会では地域行事の充実を図るため、みなさまのご希望やアイデアを取り入れながら、会員のみならずとともに楽しめる、実用的で楽しい企画はなんだろうと模索していますが、みなさまのご期待に応えられているのか心配しています。本年度の行事を更り豊かにするため、みなさまの積極的なご意見・ご提案をe-mail、fax、

埼玉MLなど、どんな方法でも結構です。連絡先は紙面の都合もあり、一例として下に記しますが、世話人であれば誰でも受け付けますので、心置きなくお寄せくださるようお願いしています。

連絡先: 〒355-0156埼玉県比企郡吉見町長谷1504-60 樽谷 勇 / fax: 0493-54-0932 / e-mail: tarutani@peach.ocn.ne.jp

(埼玉地域交流会代表 樽谷 勇)

東京地域

～地域イベントへの参加と近隣グループの活動～

東京地域交流会は、2月12日に大田区立洗足池小学校で開かれた大田区主催の第5回エコフェスタワンダーランドに参加し、小学生のキッズスタッフの手助けで地球温暖化についての紙芝居とCO₂ゲームを行いました。

教育の場所で活動することは、エネルギー問題を抱えてゆく次の世代の子どもたちに、太陽光発電を含む自然エネルギー利用を認識してもらう良い機会です。2006年度、区は小・中学校を対象に環境教育に力を入れる方針を打ち出しています。東京地域交流会ではこのような場に使える教材を企画して参加を予定しております。

4月15日には、城南4区(世田谷、目黒、品川、大田)の会員に呼びかけて、第1回近隣グループの会合を世田谷の玉川区民館で開催いたしました。東京で行っているPVカルテ、発電電力量入力お助けキャンペーンをもとに会員ページからの入力の方法などを見ていただき、技術的な疑問や質問に答え、データの記録の大切さを話し合いました。次回の開催は8月ごろを予定しています。

(東京地域交流会世話人 関沢ひろみ)

4月22日には国分寺地域近隣グループを開催しました。今回はいまままで趣向を変えて地域の会員

2人にPV紹介をしてもらい、PVへの熱い思いを語っていただきました。また、市報にも開催案内が掲載されたため、設置検討者2名も迎えることができました。今後はこのように活動を広げていきたいと考えています。

また、5月2～7日、羽村市生涯学習センター「ゆとろぎ」開館祝賀祭に参加してきました。このイベントでは愛知万博で好評だった「太陽光でドン」を出展しました。残念ながらイベント全体の来場者は少な目でしたが、参加していただいた方にはゆっくりお話しする時間があり、未会員の設置者の方などには当会をアピールできたのではないかと思います。

(東京地域交流会代表 高柳良大)

● 神奈川地域 ●

～2006年神奈川地域交流会見学会～

春たけなわの4月8日(土)、第3回見学会を開催しました。

見学先は、徹底的に自然との共生にこだわって、昨年修道場を新設した「三浦修道院」と、三浦市が設置した「風力発電施設」で、総勢29名が参加しました。

三浦修道院は、一見、修道院とは思えない純和風の造りで、随所で自然との共生および自然エネルギー利用が追求されています。10kW太陽光発電、1.36kW風力発電、1600L太陽熱温水器、ペレットボイラーとペレットストーブ、70t雨水タンク、LED照明器具と採光用天窗が屋内に点在し、陶芸やパン焼きのための石釜やパーマカルチャー菜園と雑木林が屋外に広がっています。ここでシスターたちが日々の生活を送っているのですが、自然との共生は祈りを一段と深いものに変容させたということでした。

修道院見学のあと、一行は送迎バスによるお迎えを受けて、城ヶ島のホテルに向かいました。太平

洋を眼下に臨みながらの海鮮ご膳の昼食と、海洋深層水の温泉はこれまた絶品、しみじみと幸福感に浸ったひとときでした。

昼食後は、風力発電見学です。「最寄り駅まで送ってもらうついでに風力発電に立ち寄り」という強引なお願いを聞き入れていただき、再びホテルの送迎バスでいざ出発。ほどなく2基の400kW風車が音を立てて回っている現地に到着して全員で記念写真を撮りました。黙って黙々と発電するPVに比べ、音を立てて発電する巨大風車はとて存在感がありました。

(神奈川地域交流会代表 野村安子)



随所に自然との共生および自然エネルギー利用が追求された修道院



風車の前で記念撮影

● 山梨地域 ●

～甲府と富士吉田で説明会開催～

3月12日(日)、PV健康診断・PV-Green説明会が甲府市南部市民センターで開催されました。甲府市内の太陽光発電所で健康診断を希望され、事前にPVカルテと発電データを送付された方が参加対象でした。

今回の説明会は、設置者へ補助金を出している甲府市環境課の取り計らいにより実現しました。参

加者は12名でした。また、診断結果を後日郵送した発電所が24名おられました。

今回はPV健康診断の結果と影の影響や近隣比較についても説明を行いました。参加者の発電データの傾向を見てみると、最近の太陽光発電所は、性能が以前に比べてアップしたように感じられます。やはりPVメーカーの技術革新は進んでいるのだと思いました。

今回の説明会では、グリーン電力の証書化についてと、今後のCO₂排出権取引の可能性についての説明も行い、みなさんの関心が高まっていました。

翌月の4月22日(土)は、富士吉田市民会館で説明会を開催しました。富士吉田地域の設置者に事前に案内を送付しました。また、前日の山梨日日新聞に事前の案内が掲載されました。しかし参加者は会員3名、一般3名の合計6名と少数でした。世話人の参加は渡辺さんと私の2名でした。

説明会の内容は、まずはじめに会の紹介とPV健康診断に関する説明を行いました。続いて太陽光発電の売電単価とRPSに関する簡単な説明を行い、グリーン電力の認証とPV-Green事業について説明しました。

説明終了後、参加者からの質問に対する回答と意見交換を行いました。少人数なので参加者と有意義な意見交換を行うことができました。

(山梨地域交流会代表 大友 哲)



3月12日に甲府市で開催したPV健康診断・PV-Green説明会の様子

● 静岡地域 ●

～会員数倍増200名達成を目指して～

PV-Netが発足して3年目を迎える2005年度は、静岡地域交流会にとって発足以来の懸案であった“会員数100名確保”という大きな課題を、まずは達成できた記念すべき年でありました。

発足1年目の9月に会員数29名でスタートした当地域交流会は、県東部地区を中心に「フォーラム」と「PV見学会」を開催して、それらの案内は世話人が自宅周辺をポストインしてチラシ配布から始めました。従って参加者の多くは世話人が自宅訪問して呼びかけたご近所同士であることから、自然と仲間意識が育まれたこと、さらに新会員からのポストイン呼びかけが会員拡大につながったように思います。

発足2年目の04年4月に57名、3年目の05年5月に88名と、100名確保には程遠い状態が2年間続いたのですが、05年9月、ついに念願の100名突破。さらに05年11月138名、06年2月164名、06年4月174名で、いよいよ200名達成の大会が目前に迫ってまいりました。

静岡地域交流会における会員数倍増の原動力は、発足当初から世話人全員で取り組んできたポストインと、県および傘下市町のイベントに積極的に参加したことにより、自治体職員やイベントで懇意になった参加団体の電力会社、メーカー、設置業者などとの交流の輪が県下一円に広がりつつあ



1月29日に開催した環境講演会の様子(共催:静岡県、後援:三島市)

ることが言えると思います。

会員一丸となってさらなる目標に向かって前進することを誓い、会員のみなさまのさらなるご支援とご協力を切にお願いします。

(静岡地域交流会代表 山下正道)

● 中部地域 ●

～設立フォーラムを開催しました～

中部地域交流会は2006年2月18日に設立フォーラムを開き、3月の理事会で地域交流会としての承認をいただきました。

設立フォーラムでは次の行動宣言を採択しました。

①太陽光発電所ネットワークの目的に則り、PV-Netの普及と会員相互のネットワークを構築しよう。

②自治体、マスコミなどと連携を図るとともに、電力会社、関連企業等とのコラボレーションの可能性を追求しよう。

③当(広域)中部地域交流会の会員は、それぞれ独自の方法で会員を増やす活動の輪を広げよう。

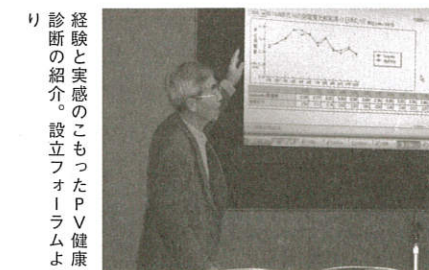
④今後のフォーラムでは、交流の輪を広げ、その成果を確実なものにしよう。

また、当面の活動は以下の通りです。

①東海・東南海地震でのPVの活用について、会員のみなさんの知



全国で展開中の活動を、参加者も熱心に聞かれています。設立フォーラムより



り 経験と実感のこもったPV健康診断の紹介。設立フォーラムより

恵や工夫を寄せ合うために「PV防災プロジェクトを立ち上げる」。

②中部地域交流会は愛知、岐阜、三重、長野という4県にまたがっていますので、各県単位の地域交流会を立ち上げるとともに「近隣グループの交流を図る」。

③私たちがPV-Greenの制度や運用の理解、参加をすすめるためにも説明会を活動に位置付けましょうということで「PV-Green説明会の開催」。

④「PV基礎講座の開催」。7月に中部全体のフォーラムを計画中。

⑤会員の琵琶里PV発電所所長さんのご自宅の真南にマンションが建ち、マンション会社はお金で解決をと言うのですが、太陽を積極的に利用し発電するというのは基本的な人権にかかわる問題ですので、「琵琶里PV裁判支援」(太陽を利用する権利を争点にするという全国でも珍しい裁判)。

⑥「会員を増やしましょう」ということで、5月14日の「フォーラム in春日井」の取り組みを目下進めています。

(中部地域交流会世話人 三浦悦夫)

● 関西地域 ●

～「グリーンバザー」里の風に参加～

日時: 4月2日(日)、10～12時

場所: 大阪府八尾市光町公園

展示品: ミニソーラーカー(事務局より拝借)、太陽光パネル3枚(高槻の白石様から借用)、バッテリー、揭示用手づくりポスター、写真、書翰わが家ではじめる太陽光発電)他

目的: PV-NetのPRと会員の拡大

経過: 身体障害者の通所施設である「里の風」主催のバザーの付属として、会場のひと区画にテント1張り(3m四方)を使って上記品を展示。世話人4名参加。

朝からあいにくの雨で、客足は鈍く、太陽が出なかったため、やむを得ずサーチライトでミニカー

を走らせました。この日ほど雨が疎ましく感じたことはありませんでした。

結果、雨天における太陽光発電は全く無力。物珍しそうにパネルを見たり、説明に関心を示したりする人もいました。途中、雨が強くなり、正午に切り上げ終了になりました。

我々は初体験でわからない面も多々ありましたが、最悪の条件下での体験をし、少しは自信がついた気がしました。悪天候によるマイナス面を考慮すれば、一応初期の目標は達成できたと思います。今後は出し物などにもうひと工夫が必要かとも考えました。

会員拡大については、関西のオッチャン、オパチャン連中の勧誘は非常に難しいと言わざるを得ません。忙し過ぎるのか、目先のことだけしか考えていないのか、よくわかりません。

現在、ポストインを中心に懸命にやっていますが、反応がほとんどなく、なかなか思うように行っていないのが現状です。何か別の方法を考える必要がありそうです。



「グリーンバザー」里の風の関西地域交流会出展ブースに掲示した手づくりポスター



雨のため、ミニソーラーカーの走行にはサーチャイブを使用

いずれにしてもかなりの時間がかかると思われます。

「儲かりまっか?」「ボチボチでんな!」ってな調子でじっくり、地道に進めるしか手がないようです。

(関西地域交流会世話人 大上照男)

九州地域

～全国のみなさん はじめまして!～

4月22日に設立した九州(広域)地域交流会(PV-Net九州)ですが、設立の余勢を駆って、今後続々と県単位の地域交流会を設立していきます。その活動計画をご紹介します。

宮崎地域は、みなさんご存知の通りすでに設立していますが、佐賀地域交流会も前日の21日に設立しました。7月15日には長崎地域交流会の設立フォーラムを予定しています。さらに熊本地域も7月中には設立の見通しです。

続いて大分、鹿児島、北九州・福岡地域と、上半期中には九州地方すべての県で設立したいと考えています。当分、都筑事務局長、伊藤担当とも、九州で独占することになりますが、なにとぞお許しください。

各地域とも設立フォーラム開催から約1カ月後には、PV-Green事業説明会を開催します。これは、1カ月の間に2回マスコミに取り上げていただくことを狙ったもので、九州県内に広くPV-Netを周知させることとなります。すでに多くの問い合わせをいただいております。年度目標800名の会員の獲得に向け



長崎地域交流会準備会メンバー

て順調に滑り出している、と評価しています。

今後は、10月末の「設備認定」下期締め切りまでに、PV-Green事業説明会を各県で開催するとともに、下半期にはグリーン電力証書の需要家となる企業・団体への営業活動も本格化させます。

さらに、九州相談室の立ち上げや九州合同イベントの開催、また、協力いただいている再生可能エネルギー推進市民フォーラム西日本(REPW)との共同事業として「自然エネルギー学校」や「パイオニア会議」なども実施したいと考えています。

このように、今年度は九州広域および各地域の立ち上げ、様々なイベントなどを通じてのPV-Netの周知徹底、また九州広域と各地域の役割分担・組織整備も課題であると認識し、取り組んでいきたいと考えています。

(九州(広域)地域交流会事務局 小池寿文)

宮崎地域

～高校でソーラーカー製作教室開催～

宮崎地域交流会では、2006年(平成18)2月11日(土)にひむかおひさま共和国とソーラーカー製作教室を共同開催しました。この計画は、私どもから宮崎県教育委員会に提案し、教育委員会と一緒に行ったものです。

対象は、宮崎市内の宮崎工業高校と佐土原高校の2校の生徒でした。両校とも人の乗れるソーラーカー製作を部活で進めていることもあり、参加者はその部員の生徒と顧問の先生方でした。

代表の清水、副代表の栗原、小川、下津、ひむかおひさま共和国事務局長の楠見が参加し、県教育委員会からも担当の方が参加しました。

宮崎工業高校での製作教室は朝8時から開始。まず生徒10名と先生2名に対し、楠見から世界や日

本のエネルギー事情、温暖化問題、自然エネルギーの話クイズ形式で30分ほど行いました。続いて、ソーラーカーの製作に入りました。製作前に、部品の手配をした小川が、ニッケル水素充電電池や太陽電池の特性などの解説を行いました。

ほぼ手づくりですが、さすが工業高校の生徒さんです。工具の扱いにも慣れていて、着実に製作は進みました。完成車でレースを予定していましたが、次に予定していた佐土原高校との約束の時間が迫っていたため、後ろ髪引かれる想いで別れを告げました。

佐土原高校での製作教室は、予定より30分遅れて11時から開始し

ました。こちらは生徒14名、先生4名の参加でした。休日にもかかわらず、校長先生も生徒たちと一緒に製作に参加されました。

工作実習室を使用したため、半田銲や万力など多くの工具が揃っていて、最高の条件で製作できました。生徒たち、先生方、もちろん私たちも昼食を忘れての製作となり、全員のソーラーカーが完成したのが3時前でした。その後完成記念のレースを行いました。

両校で開催した製作教室を通じて良かったことは、生徒さんたちに広い視野でエネルギー問題を考えていただいたこと、温暖化などの解決に技術が役立つことを考え

ていただいたこと、何にも増して先生と生徒が、お互いに聞いたり教えたりしながら、同じ作業を通じ信頼感があることを感じたことでした。

(宮崎地域交流会副代表 下津義博)



高校生に指導する小川さん。佐土原高校でのソーラーカー製作教室にて

PV-Net川柳第九回

- ① 花吹雪 パネルに付着が気に掛かり (神奈川・川崎の〇〇〇〇)
 - ② 屋根上で静かに稼働 優れもの (福岡・常慶)
 - ③ 「明日は晴れ」 そう言う予報士 好感度
 - ④ 高みからお仲間探す (モノレール)
 - ⑤ 神と我れ 叫びは同じ 「光在れ!」 (以上三句 東京・柳瀬)
 - ⑥ 太陽光稼働は春の 彼岸から (埼玉・XYZ)
- ①の川崎の〇〇〇〇さんの投稿はこうでした。
さくら吹雪 花びら貼り付きが気に掛かり
こんなこと本気なわけありません。川柳のジョーク。「本心は風流を堪能しています……」のメモがありました。
借越ながら、字余りを、勝手に、断りもなしに修

正させていただきました。本当の花散らしは気になりますね。これも季節の巡り合わせなのでしょう。②は初顔の福岡・常慶さんの句。本誌13ページ掲載のシステム写真に添えるコメント用にいただいた「屋根上で静かに稼働 我家の優れもの」を、川柳として使わせていただきました。これもやはり字余りでしたので、修正させていただきました。風力と違って、風が吹いても吹かなくても、太陽が出ていれは文句も言わずに発電し、稼いでくれます。「今日は暑いからビール」などは言いません。③は東京・柳瀬さんも初顔です。三句もありがとうございます。④は、最近、首都圏の鉄道が高架になってお仲間を探せるのですが、首都高はいけませんね。目隠しのお陰で乗用車からは見えません。ご近所のお仲間探しもよろしく。⑤は気持ち分かりますが、私は欲張りなせいか「もつと光を」のゲートに便乗したいです。⑥は、「彼岸」という季語が入っていますが、川柳は小さいことにこだわられません。春の彼岸から秋の彼岸まで、太陽光発電の稼働どきではありませんが……。

PV-Net川柳には、むずかしい講釈は不要です。広い意味で、太陽光発電に関わることを五七五調で生活を詠んだものなら、それでいいのです。ただ、担当者の狭量が問題です。気持ちだけでも「広量な大人物」になりきりたいと思っています。
次回も、このコーナーで、あなたの川柳とお会いしたいですね。
(担当:普及広報部・松田廣行)

【応募方法】名前およびペンネームを明記の上、自作の作品三句以内をハガキまたはEメールなどで事務局宛にお願いします。なお、作品は返却しません。

2005年度第5回理事会

- 日時：3月18日(土)
14:00~17:30
- 場所：水道橋 こんびら会館
- 参加者：理事16名(代理1名含む)、監事2名、評議員1名、事務局3名

会員拡大プロジェクトより、会員拡大のための方策を各地域で実行していくようお願いがありました。PV-Green事業部からは計量法に関する報告があり、山梨の大友理事からは山梨自然エネルギー発電株式会社(仮称)設立の提案がありました。事務局からはNPO法人化諸手続きの進捗状況報告や総会準備およびスケジュールの確認を行いました。

審議事項では、広域地域組織を視野に入れた地域交流会規程が承認され、会員数が40名以上となった地域(広域地域含む)に交流会が設置できるようになりました。それに合わせ、愛知・岐阜・長野・三重と4県の会員が集まった中部地域交流会、大阪・京都・奈良・滋賀・兵庫・和歌山と1府5県の会員が集まった関西地域交流会の設立が理事会で正式に承認されました。

議案書事項としては中長期財政案、新年度活動方針案が話し合われました。また、給与規定案は次回理事会へ持ち越しとなりました。

普及広報部

初年度に好評を博したPV基礎講座を、今年は相談室と協力し、2月、4月の2回開催しました。本誌P.4~8にその様子の概要を伝えています。新年度は各地域でより身近な集まりやすい講座を開催していく予定ですので、みなさん、講師のリクエストや各地域の開催準備等にも参加し、魅力的な講座の開催に是非協力ください。

今年は、環境に関する社会全体

の関心の高まりを受けて、また各地域の会員のみなさんによる活動の活発化により、PV-Netが地域の環境イベントに出展する機会も増えました。愛知万博への出展、エコプロダクツ2005への出展、各地の環境イベントへの出展などで、“ソーラータウン”、“太陽光発電でドン”、“ミニソーラーハウス”、“ソーラーカーレース”など、太陽光発電を身近に感じてもらえるようなグッズも少しずつ増えてきています。貸し出し可能なPV-Netの普及啓発ツールもさらに充実させていきます。イベント用貸し出しツールのライブラリー化をしていますので、地元の環境イベントなどでどんどん活用してください。

新年度は、日産科学振興財団により理科・環境教育助成を受けた“太陽光発電でドン”の開発と実際の教育現場での活用を具体的に行っていきます。また、10月に幕張で開催される再生可能エネルギー国際会議2006でPV-Netも出展に協力します(本誌P.10参照)。

また、普及広報部として設立当初から継続してホームページの運営と会報発行を行っています。ホームページはより魅力的なものへ改善していきます。また、PV-Net全体の方針として、活動に賛同する方からの協賛金収入を増やしていくため、会報、ホームページへの広告掲載を具体的に検討しています。広告の掲載団体等についてもお勧めがありましたらお気軽に連絡ください。

(普及広報部座長 高柳良大)

財政部

今年度もあとわずかになりました。財政部は4年目に入る準備として各地域交流会、各専門部会からの意見をいただき2006年度からの中長期財政案を作成しています。2006年度の体制は活動方針(案)にある通りに、今年度のスリム体制

を受け、大きな改訂はせず、現状を修正しつつ細部を充実させていく方針です。

立ち上げには東京電力(株)から大きな寄付をいただいておりますが、いよいよ独り立ちが求められる大変厳しい時期となります。この時期を乗り越え自立してゆかなければなりません。

当然のことですが、市民活動として寄付に頼りきりの状態は正しいものではありません。基本財源としての会費収入、協賛金や事業による収益、小口寄付収入。付加財源としての委託金、助成等の収入を得て、バランスのとれた財源構造に移行させてゆく方向へ軌道を求めていく必要があります。

そのため、絞れる支出は極力絞り、堅実な会費収入の増加を求め、NPO法人として参入できる委託事業や助成金を確得して、PV-Netが活動を持続的にやり、再生可能なエネルギー社会の実現に貢献する方向に進んでゆこうとしています。

スリム化を図る一方、全国に広がる会員に公平なサービスを提供するために、地域の事務局の運営も必要になります。事業についても一過性でなく長く継続していく地道な動きが求められます。現在はPV-Greenが事業として活動しておりますが、これも新しいビジネスモデルとして、また社会制度としてゆくために、会員のみなさまのご協力が是非とも必要です。

10号に同封しましたアンケートに貴重なご意見もいただきました。これらを参考に活動の方向を定めてゆきたいと思っております。

市民活動は難行苦行ではありませんので、使命の中にも楽しみを見出し、厳しい中にも明るくお太陽さまを仰いでいきたいと思っております。

(財政部座長 関沢ひろみ)

相談室

4月・5月は例年最も発電量が

多くなる月ですが、今年はいかですか? 天候のせい(黄砂もあるか)で必ずしも芳しくないようです。4月の推定発電量の発表が待たれます。

第1回2月18日、第2回4月8日に普及広報部に協力して開催したPV基礎講座には、延べ100名を超える方々に参加していただきました。特に宮城、大阪、奈良、愛知などの関東圏外や静岡、栃木、群馬などの遠地、また会員外からも多数参加していただきました。今後のPV基礎講座のあり方として、単に部会行事にとどまらず、重要テーマとして関東圏外の開催も含めて取り組むべきと考えています。

第2回PV基礎講座の中で産業技術総合研究所の加藤和彦講師が提言された「PVレスキュー(PVのお助け部隊)」(実際の設置者宅でのPVシステムのデータ測定)に対して、早速さいたま市の会員Sさんから不具合調査の申し出があり、測定してもらうことになりました。4月19日に予備調査、5月10日の本調査には産総研から加藤氏をはじめ3名の研究者がSさん宅で測定を行い、不具合部(コネクター外れ)を摘出することができました。

今後もPVレスキューとは良い関係を保ち、相互に補完しあえる関係づくりをして、相談室活動のレベルアップを図っていきたく思います。(相談室座長 國井範彰)



調査のため、屋根に登る加藤氏

PV-Green事業部

何か遠い昔のことのようにも思われますが、21名の会員で構成する「PV-Green関東エリア・ファーム1」がグリーン電力認証機構によ

る設備認定を受けたので、「必要となる書類」として、次の資料を「年に一度、定期的に、時期を失することなく提供するように」と事務局から要請を受けたのは2005年3月30日のことでした。

- ①発電電力計(インバータ)に表示された累積発電量の写真
 - ②電力会社より届く「太陽光発電設備からの余剰購入電力量のお知らせ」
- この「ファーム1」を創設するため、数人が事務局と一緒に、初めての経験である必要書類の案文作成や手続きに無我夢中の状態で連日連夜、取り組んだのですが、一時は実現が危ぶまれ、暗い気持ちになったりしたのは小生だけではなかったと思います。しかし、事務局のみなさんの溢れるばかりの情熱と献身的な努力のおかげで、その後、若干の紆余曲折はあったにせよ、次々と「ファーム」が立ち上がり、現在では、総ファーム数15個、総発電設備能力約1,570kWに上っています。

新年度からは、PVグリーン証書の売り手(PVの設置者)と買い手(環境保全に関心のある企業、行政、一般市民など)の拡大が最大の課題であり、会員一人ひとりが事務局と一致協力しながら、持ち味を生かして、目的達成に向け努力することが大切かと思っております。

なお、坂氏による「PV-Greenの商標」を付した「PV-Green電力証書」が2005年9月2~7日、東京都庁第一本庁舎45階・南展望室で開催の「ゼロ・カーボン・シティ東西南北写真展」に展示されたのは、将来、記憶に残る快挙だったと思います。(PV-Green電力事業部員 畑山 茂)



正面の3つのパネルの中、左がPV-Green証書

会員拡大プロジェクト

組織のスリム化のため、一昨年末まであった組織交流委員会が機能しなくなったこともあり、委員会廃止となりました。最大の課題である会員拡大の取り組みが遅れ気味でした。

そのため、日江井代表理事を座長に会員拡大プロジェクトが昨年12月に発足。会員拡大に持続的に関わり、熱意のあるメンバーがプロジェクトメンバーとなって拡大討議がなされています。

方針は以下の通りです。

- ・会員拡大についての方針、計画や企画を立て、進捗統括を行う。
- ・各地域交流会や会員が事務局他各組織と連携して実施展開する。
- ・会員拡大の具体的方法として、以下に取り組んでいます。
- ・連絡先を得るための新ポストイン「ポストルック」の実施(データベース化)
- ・マスコミを通じた広報(専属記者をつくるなど、戦略的な広報のスケジュール化)
- ・会員メリットをより強調(PV健康診断、PV-Green、会報など情報、会員同士の交流など)
- ・設置業者との対等な協力
- ・全国化による会員拡大

ポストルックでは中部地域交流会世話人の吉田幸二さんが400件を超える成果を挙げ、それを基に5月14日の中部地域太陽光発電フォーラムin春日井が取り込まれ、成果を挙げています。

また、何よりの朗報は、2/18中部地域交流会、3/5関西地域交流会、4/22九州地域交流会が立ち上がったことです。個性溢れるこれら広域の交流会を基に各県単位の地域交流会が続々と輩出し、佐賀、長崎、熊本などは夏前に立ち上がる予定です。その後も全国各地の新しい地域交流会が立ち上がってきます。仲間が続々と増えていくことはうれしい限りです。(事務局)

新しい事務所に引っ越しました！

ご連絡が遅くなりましたが、6月1日より下記の住所に引っ越しました。新しい連絡先にご注意ください。

住所：〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-10 湯島ビル202号室
 電話：03-5805-3577/FAX：03-5805-3588
 アクセス：JR御茶ノ水駅「聖橋口」、
 地下鉄新御茶ノ水駅「B1出口」より徒歩約5分。

会員更新のお願い

5～10月に入会したみなさん、会費更新の季節（5月末）です！この2月にNPO法人となったPV-Netが、益々の意義ある活動を展開するにはみなさんの会費が頼りです！多くの方が指定口座への振込み、自動振替・払込の手続きを行っています。まだ会員更新されていない方は、下記郵便振替口座へ年会費3,000円をお振込みください。よろしくお願ひします。

- 郵便振替：00190-7-758332
- 名義：太陽光発電所ネットワーク

会報10号でもご案内しましたが、PV-Netではご入会の時期（前期・後期の区分）により会員の更新時期（会費納入時期）を分けています。会報発送時の封筒の宛名シールに「会費有効期限」として記載していますのでご確認ください。会費納入時期（会費有効期限）は、右の表をご覧ください。

●入会の区分と会費納入時期、自動振替・払込の申込み切について

区分	入会時期	会費納入時期	自動振替・払込	申込み切
前期	5/1～10/31	5/31	4/10	（メ切を過ぎた場合、今年度会費は振込が必要）
後期	11/1～4/30	11/30	10/10	

寄付を募集しています

PV-Netでは、PVの発電環境を充実させるなど、社会的に意義ある様々な活動を持続的かつ効果的に展開していくために、賛同くださる企業・団体・個人の方々からの寄付を募集しています。ご協力をお願いいたします。お知り合いに賛同くださる方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。

また、次の方々からご寄付をいただきました。ありがとうございます！静岡県掛川市の牧野榮行さん、愛知県名古屋市の吉富政宣さん、東京都八王子市の畑山茂さん、岡山県倉敷市の荒田鉄二さん、東京都江戸川区の伊藤恵理さん、東京都渋谷区の桃井岳彦さん、東京都豊島区の三代川正秀さん、東京都国分寺市の番場祥充さん。

<2006年2月（16日～）>

- 16日 HP打合せ（普及広報委員会）
- 18日 クリーンエネルギーフェスタ（主催：宮崎県、宮崎県企業局、宮崎科学技術館）（ミニ・ソーラーカー製作前講座&出展：ひむかおひさま共和国/協賛：宮崎地域交流会）～19日 第1回PV基礎講座 中部地域交流会立ち上げフォーラム 千葉地域交流会世話人会
- 19日 関西地域交流会準備会
- 21日 神奈川地域交流会近隣グループ（金沢地区）
- 23日 会報「PV-Net News」編集会議（普及広報部） 山梨地域交流会世話人会
- 24日 神奈川地域交流会世話人会
- 25日 茨城地域交流会世話人会 拡大三役会議
- 26日 たのしい太陽光発電～設置者の体験報告（東京地域交流会日野地区） 神奈川地域交流会近隣グループ（相模原地区） 地域密着型の太陽光発電グリーン電力証書の普及モデル報告会

<3月>

- 2日 三役会議
- 4日 埼玉地域交流会巡回世話人会（川越）
- 5日 第4回PV-Netフォーラム埼玉（埼玉地域交流会） 関西地域交流会立ち上げフォーラム
- 7日 東京地域交流会世話人会
- 9日 会報編集会議（普及広報部） HP打合せ（普及広報部）
- 11日 千葉地域交流会世話人会
- 12日 山梨地域交流会「PV健康診断・PV-Green説明会」
- 13日 第6回PV-Green事業部会
- 14日 第4回財政部会
- 15日 神奈川地域交流会近隣グループ（川崎・横浜北部）
- 18日 会員拡大プロジェクト 第5回理事会
- 19日 神奈川地域交流会近隣グループ（県央地区）
- 20日 事務局休み
- 21日 神奈川地域交流会近隣グループ（鎌倉・逗子地区） 神奈川地域交流会近隣グループ（横須賀・三浦地区） 神奈川地域交流会近隣グループ（金沢地区）
- 25日 茨城地域交流会世話人会
- 29日 神奈川地域交流会近隣グループ（保土ヶ谷地区）
- 30日 神奈川地域交流会世話人会
- 31日 神奈川地域交流会近隣グループ（栄地区）

<4月>

- 1日 埼玉地域交流会巡回世話人会（春日部市民会館）
- 6日 中部地域交流会世話人会
- 8日 第3回神奈川見学会～春爛漫の三浦半島で施設見学と海洋深層水の露天風呂を楽しもう！（神奈川地域交流会） 第2回太陽光発電基礎講座 千葉地域交流会世話人会
- 11日 第7回PV-Green事業部会 第4回普及広報部 第5回財政部会
- 14日 東京地域交流会近隣グループ立ち上げ（城南地区） 関西地域交流会世話人会
- 18日 拡大三役会議
- 20日 神奈川地域交流会世話人会
- 21日 佐賀地域交流会世話人会
- 22日 国分寺近隣グループ交流会（東京地域交流会） 埼玉見学会～日本工業大学の太陽光発電設備見学会（埼玉地域交流会） PV-Green説明会（山梨地域交流会） 九州（広域）地域交流会立ち上げフォーラム（主催：太陽光発電所ネットワーク・九州地域交流会準備会）

<5月（～15日）>

- 3日 羽村市生涯学習センター「ゆとろぎ」開館 祝賀祭第2期・出展（東京地域交流会）～7日 群馬地域交流会世話人会 東京地域交流会世話人会 第1回財政部会
- 11日 山梨地域交流会世話人会
- 12日 第1回臨時理事会
- 13日 熊谷地区エリア交流会（埼玉地域交流会） 関西地域交流会世話人会 千葉地域交流会世話人会
- 14日 PV-Netフォーラムin春日井（中部地域交流会）

ペンギンのはばたき

- ◆周りが春紅葉の実家はやっと引っ越しが完了。家の歴史を聞いた。私たちの事務局も引っ越しする。新たなスタート。(ト)
- ◆軒先にツバメの巣が2つ。おしあひへしあひヒナが顔を出すのが待ち遠しいこのごろ。(テ)
- ◆中部・関西・九州の広域交流会が立ち上がりま

した。全国化の基盤が整いました。印象的なのは立ち上げたみなさんの初々しい姿です。初心ここにありです。(都)

◆緑の多かったわが家の周りはいつの間にマンションばかりが多くなった。数年前に出会ったたぬきはまだ生きていだろうか。(い)

Editor's Notes

NPO法人 太陽光発電所ネットワーク (略称: PV-Net)

〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-10 湯島ビル202号室

<交通のご案内>

- ①JR/地下鉄御茶ノ水駅「聖橋口（秋葉原駅側）」より徒歩5分
- ②地下鉄新御茶ノ水駅「B1出口」より徒歩5分

TEL 03-5805-3577
 FAX 03-5805-3588
 URL: www.greenenergy.jp
 E-mail: info@greenenergy.jp

